

市長座談会

2014年度中の東九州自動車道の開通区間は“宮崎止まり”である。従って、県南西部の自治体はその恩恵を享受するには、開通効果と呼び込める具体的な戦略が問われることになる。地元が強く要望している高速道路網の早期整備をいかに実現することも重要な課題だ。県経済の発展を左右する問題とどう対峙し具体的な対策を講じるのか。若手3市長が、高速新時代を見据えた対応と今後の展望を語った。

(場所: 都城市役所市長室)

司会進行/本誌常務・企画編集部長 竹井 文夫

「3市の発展に重要なのは、ポスト14年、 県南西部の将来見据えビジョンを描く」



Sakita Kyohei

崎田 恭平氏

日南市長



Ikeda Takahisa

池田 宜永氏

都城市長



Muraoka Takaaki

村岡 隆明氏

えびの市長

「地の利」拡大の都市とえびの市 「真の全線開通」悲願とする日南市

—東九州自動車道の県内区間が3月中に開通し、北九州—宮崎間も14年度中に開通する見込みです。いよいよ間近に迫った「高速新時代」の到来を、どのように捉えていますか。

村岡 九州自動車道の全線開通は95年7月ですから、えびの市は20年余り高速自動車道の恩恵を受けていると言えます。本市が持つ最大の特徴は、南九州3県の県庁所在地と1時間圏内にあるということです。こうした地の利は、他の自治体が持ち得ないメリットですから、私を含め市民がまだ気付いて



●村岡 隆明
(むらおか・たかあき)
1999年11月から2009年8月まで、3期えびの市議会議員を務める。同年10月えびの市長に就任。現在2期目。近畿大理工学部卒。1962年12月5日生まれ



●池田 宜永
(いけだ・たかひさ)
1994年4月大蔵省入省。2007年4月から都城市副市長。10年7月財務省主計局主査(農林水産係)。12年11月都城市長に就任。東京大大学院経済学研究科修士課程修了。1971年4月7日生まれ



●崎田 恭平
(さきた・きょうへい)
2004年4月宮崎県庁入庁。地域振興課、西都土木事務所、医療業務課などを経て12年8月退庁。13年4月日南市長に就任。九州大工学部卒。1979年5月22日生まれ

いない潜在能力があるのではないかと感じています。その好例が、昨年4月20日にオープンした「道の駅 えびの」です。インターチェンジ(IC)に隣接し、気軽に立ち寄れるスポットとして認知度が高まっており、年末までの来場者数は当初の予想を大きく上回る43万人に達しました。しかも、その7割が市外のお客さまです。こうした経験を通して再認識したのは、交通体系が整備されただけで交流人口の拡大を図ることはできず、お立ち寄りいただけるような魅力の創出が不可欠だということです。そこで、既存の観光地や観光施設の受け入れ態勢の拡充と併せて、新規イベントを開催するなど誘客を図る新たな対策を講じ一定の成果を上げています。

崎田 九州の皆さんに認識していただきたい

いのは、14年度の北九州—宮崎間の開通が東九州自動車道の全線開通ではないということです。あらためて申し上げる必要はないかもしれませんが、東九州道は北九州市から九州道の加治木ジャンクションに至るまでの区間です。総延長約436キロのうち日南—志布志間の約40キロは唯一、事業が着手されていません。私は年明け早々に上京した際にも、国土交通省を訪問して一刻も早い全線開通を要望しました。もちろん、全線開通の効果と呼び込む対策にも既に着手しています。例えば、延岡市に副市長と担当職員が出向き、新直轄方式で整備された区間の開通後の状況について調査を行いました。また、全線開通後には宮崎市と30〜40分程度で結ばれることを生かせるような対策も講じています。

具体的には、高等教育の拡充や定住促進などです。特に教育に関して、高校生を福岡市内の大手予備校の冬期講習に通わせる留学制度を導入したのも対策の一環です。その背景には、毎年の高校進学者の2割にあたる100人余りが宮崎市内の高校に通うという現状があり、何らかの対策を講じなければ高校生の流出が避けられないからです。そのほかにも、誰もが住みたいと思う市になるために、独自の観点から中心市街地の活性化に取り組んでいます。その手法は、後ほど紹介させていただきます。

池田 市長就任以来、私は当市が持つ「三つの宝」を輝かせる施策の実施に努めてきました。その三つは、地域の基幹産業である農

林畜産業の振興、地の利を生かす政策、次

世代を担う子どもたちの育成です。そのう

ち、地の利を生かす政策に関しては、東九州

道の志布志ICともつながる予定の地域高規

格道路「都城志布志道路」の中で計画路線

区間だった県境2区間が整備区間に格上げ

され、ようやく本格的に動き出そうとしてい

ます。また、宮崎道の山之口サービスエリア

にスマートインターチェンジが整備されるこ

とが決定し、16年度中には供用開始される

予定です。この二つの大きな事業が動き出す

とともに、都城IC近くに造成中の都城イン

ター工業団地という新たな工業団地が整備

されることで、当市が持つ地の利はますます

高まるでしょう。さらには、都城IC近くには

市郡医師会病院が来春には移転する予定

であり、こうしたさまざまな施策を講じるこ

とにより、地の利を生かしたまちづくりを進

めていきたいと考えています。

村岡 東九州道北九州―宮崎間の開通に

より、えびの市はそれほど恩恵を受けないと

思われるかもしれませんが、都城市と同様に

地の利を持つため、すでに物流関係の企業な

どから進出の問い合わせが増えています。こ

うしたニーズは今後も高まると予想されます

から、えびの市も新年度から工業団地の造

成に向けて取り組もうと計画してい

ます。この動きと合わせて、えびの

います。

崎田 大分方面からの時短効果が見込め

るといふ点では、日南市も同方面から足を運

んでいただけたような施策を講じたいと考え

ています。

池田 東日本大震災が発生した際、災害

復興に高速道路が極めて重要な役割を果た

しました。東九州道と都城志布志道路がそ

うした役割を担えるという意味でも重要だ

と思います。

経済活性化だけにとどまらない 高速体系の早期完成による効果

都城市と日南市はそれぞれ、高速道路網

の整備は道半ばといふことこのようです。主

張されている道路の必要性について、あらた

めてご説明いただけますか。

池田 都城志布志道路は、三つの重要な

役割を持った道だと考えています。一つは先

ほど申し上げた「防災の道」、二つ目が「経

済の道」、三つ目が「医療の道」です。経済

の道に関しては、地の利の向上による企業進

出に伴う雇用の拡大、志布志港から陸揚げ

される畜産用飼料の物流コストの低減、時短

効果による効率化による畜産業の振興など

が挙げられます。医療の道は、例えば、総

務省が提唱する定住自立圏構想の自治体で

ある当市とお隣の三股町、鹿児島県曾於市

と志布志市で救急患者が発生した際、スムー

ということですが。

崎田 日南市も、東九州道全線の早期開

通が必要と訴えている最大の理由は、未開通

区間が「命の道」だと考えるからです。日南

市内の病院では、二次救急医療までしか受

診できません。三次救急医療を必要とする

患者は宮崎大医学部や県立宮崎病院などに

搬送しなければなりません。海岸線を行

る国道220号は連続雨量の通行規制があ

り、一定の雨量を超えると通行止めになり

ます。また、道路が寸断されて地域が孤立し

いたためにも、高速道路は必要最低限のインフ

ラなのです。さらに、交流人口の拡大による

観光産業の振興も図れますし、市の基幹産

業である漁業に関して言えば、市内の港で水

揚げされた魚を市場にスムーズに搬送するこ

とにより、経済的な効果も期待できます。

高速道路の拡充による時短効果により市

経済にプラスの効果も期待できる半面、ス

トロ―現象などマイナスの作用への対応が

重要になると言えます。この点について、ど

のような観点から対策を講じられますか。

村岡 自分たちの市が本来的に持つ魅力

を新たな観点で再評価するとともに、新たな

資源の掘り起こしをすることが重要だと考え

ています。昨年、えびの市の田代自治会が国

内最高峰の農林水産業コンクール「農林水

産祭」のむらづくり部門で、最高賞にあたる

の背景には地域の皆さんが自分たちで地域を守ろうという取り組みの地道な積み重ねがあったと言えます。先ほど申し上げた道の駅も、地元の特産品が広域から人を呼び込む手段になることを認識し、関係者に自信が芽生えるという好循環が生まれています。地区ごとの小さなイベントでも継続



することでも市外から人が集まり、自分たちの古里の魅力に気付かされるケースも多いようです。このように、無い物ねだりではなく、あるものを磨いていこうという発想によって地域に新たな活力が生まれ、他地域と差別化を図れるのではないかと考えます。その上で、えびの市の魅力を全ての市民が共有し、誇りに感じて、外部に向かって発信していくことが重要だと思えます。市としても、市民の皆さんの機運の高まりをさらに醸成できるように、積極的に後方支援していきたいと考えています。

うマーケティング専門官を8月から採用し、街づくりに取り組んでもらっています。彼らはそれぞれ人を巻き込む能力にたけておりファンがどんどん増えていきます。また、行政に対しても次々に課題を持ち寄り、スピード感を持って課題解決を図ろうという姿勢も職員に良い刺激を与えているようです。また、商店街の方々とお話しした際「変わりつつある日南市に自分も何か貢献できないだろうか」と、県外在住の地元出身者からの連絡があると聞きました。新たな動きが増えるにつれて、街づくりの機運の高まりも感じます。商店街の活性化を担うのはやはり人ですから、日南市で勝負するのだという強い思いを持つ人をどれだけ増やせるかが重要になるでしょう。そうした意味で街づくりに民間人を採用した試みは、順調な滑り出しを切ったと考えています。また、民間人の2人に注目が集まりがちですが、彼らとチームを組む職員が非常に良い働きをしているからこそ事業がスムーズに進行していると考えています。また、2人の存在が、公平性や平等性が優先されがちな行政施策を、縦の平等性で捉えることでヒーローを生み出し好循環につなげるというスタイルに変えてくれています。私は市政運営のスタイルの一つとし

独自の街づくりという観点では、日南市が取り組まれる手法は話題を呼んでいます。

崎田 中心商店街の空き店舗対策や4年で20軒の事業者誘致を使命とする「テナントミックスサポートマネジャー」が昨年6月から、また、地元の物産や観光の掘り起こし、商品開発や販売促進などを総合的に

ら、民間人を採用した試みは、順調な滑り出しを切ったと考えています。また、民間人の2人に注目が集まりがちですが、彼らとチームを組む職員が非常に良い働きをしているからこそ事業がスムーズに進行していると考えています。また、2人の存在が、公平性や平等性が優先されがちな行政施策を、縦の平等性で捉えることでヒーローを生み出し好循環につなげるというスタイルに変えてくれています。私は市政運営のスタイルの一つとし



港を指します。これも高速道路が整備されれば、交通の要衝という当市が持つ特徴がさらに生かされるでしょう。2ルートの高速度道路とは、東西両方向に高速度道路が走るということです。こうした利便性の高まりが、えびの市や日南市と比べて見劣りすると感じている観光の振興につながると信じています。その際、当市単独で

捉えるのではなく、周辺の観光地の力もお借りしながら広域的な観光ルートを創出することで、魅力の向上を図ることも必要であると考えます。併せて、誰もが「都城市と言えどこれ！」というブランドを確立することで、少しでも当市を知っていただき、お越しいただける方を増やしていければと思っています。

**これまで以上に問われる官民協働
それぞれ独自の発想で実現目指す**

これまでの発言からは、行政が主体的に取り組む事業領域があることを前提に、いかに市民と効果的な連携を図るかという点を重要視されているように感じます。そうした視点をどのように行政施策に反映されているのでしょうか。

村岡 行政しかできない、または、行政が実施した方がスムーズに進む事業があるのは当然ですが、職員が勝手に行政と市民との領域を線引きしないことが大切だと思っています。行政運営で最も重要なのは、いかに市民との信頼関係を構築し、その関係に基づいた施策をできるかだと考えます。その上で、職員も頭を柔らかくして、市民と同じ目線に立って汗をかくことが大切だと思っています。先ほど崎田市長から外部人材を登用されて成功している事例が紹介されましたが、えびの市にも「地域おこし協力隊」があります。域外の人材を地域社会の新たな担い手として受け入

れることを目的としますが、地元住民と本音ベースでさまざまな課題について語り合ったり、これまで気付いていなかった魅力を発見したり、新しい取り組みがスタートしたりと活発な活動が見受けられます。外部のニーズを地域に反映できるという観点からも、外部人材の活用は今後、街づくりを考える上でますます重要になってくると考えます。

崎田 先ほど少し申し上げましたが、自主自立で頑張ろうとされている企業や団体に対して、しっかりサポートするのが行政としての望ましい姿だと思っています。行政は、事業を確実に成功に導く能力を持ち合わせていません。従って、事業に成功したい、目標を達成したいと頑張っている企業を支援し、成功事例をしっかりとつくることで、村岡市長がおっしゃった信頼関係が生まれ、新たな活力の創出につながると思います。



池田 現在、六次産業の推進を図っていますが、私が最初に職員に対してお願いしたのは、新しいことに挑戦したいけれども何か課題があつて実現できない人に手を差し伸べてほしいというこ

とです。その姿勢に徹すれば、たとえ周囲から不平や不満が生じて、支援した人が結果を出せば好循環が生まれると考えるからです。それは、中心市街地の再開発も同様です。市立図書館の移転などによって街なかに人を呼び込む機能は高められるかもしれませんが、商店街全体にその効果が波及するように魅力を高められるかは、店主の方々の主体的な取り組みに掛かっていると考えます。中心市街地の衰退は、郊外大型店の進出が要因の一つであることは間違いないでしょうが、そうした考えばかりに固執しては前には進まないと思います。今の消費者は、どんな辺りな所でも、そこに欲しい商品があれば、何時間掛けてでも買いに行きます。商店街が再生するためには必要なのは、そこに欲しい商品があるのか、どうしても訪れなくなる魅力的な場所なのかということです。こうした観点から、建設的な議論を交わしながら、市民ニーズに沿ったまちづくりを支援していきたいと考えます。

村岡 えびの市は今年のテーマを「笑顔でチャレンジ」に設定しました。これからの市政が時代の変化に対応するためにも、新しいことにチャレンジする雰囲気をつくるのが大切だと考えたからです。職員には「失敗した責任は上司が取るのだから、思い切つて挑戦しなさい」と声を掛けています。市民の目線に立つた施策であればどんどん挑戦すべきと考えますし、失敗したことが成功のきっかけになることだつてあります。変化を恐れず、

果敢に挑戦するという姿勢を全ての職員が共有することは職場の活性化につながるでしょうし、ひいては市民へのサービス向上を図ることができる考えます。

崎田 日南市は2、3カ月に1度のペースで、全職員を対象に市長勉強会を開いています。前半は県外から招いた講師に講演をしていただき、後半は私とフェイスカッションします。その目的は、その道で優れた人物の話を聞くことで、職員が持つ常識や固定観念を変えてもらい、新たな視点で業務に生かしてもらおうとにあります。勉強会は執務時間の終了後に行い、もちろん自由参加です。私は勉強とは、自ら進んで時間と金を掛けて自己投資するからこそ身に付くと考えています。こうした取り組みの継続が、市政に新しい風を呼び込むことを期待しています。

池田 私も、長い年月をかけて培われた市役所の文化を簡単に変えられるなどとは思っていません。ただ、良い所は伸ばし、良くない所は思い切つて変えたいという前向きな文化は定着させたいと考えています。その際、重要なのは本音ベースで語り合うことだと思えます。その積み重ねによつてさまざまな化学反応が起こって組織の活性化

につながり、職員がやる気を持つて何事にも前向きに取り組める姿勢が生まれ、市全体に好影響をもたらすと考えています。

化につながり、職員がやる気を持つて何事にも前向きに取り組める姿勢が生まれ、市全体に好影響をもたらすと考えています。

観光や防災など3市に共通する課題の解決に向けて連携を図る

市単独では実現が難しくても、3市が連携すれば実現することもあるのではないのでしょうか。今後、取り組まれない事業はございますか。

村岡 今回は高速道路がテーマでしたが、鉄道や霧島連山の周辺にある特徴を生かした環霧島経済圏など、3市をつなぐ共通のテーマについて協議し、課題を抽出して解決を図っていけば良いと思います。その場合、3市の住民の



心を集められるような視点が必要だと考えます。

崎田 例えば、日南市の北郷地区では地元の旅館組合が主体となり、南九州の温泉と酒蔵を組み合わせて観光コースを設定し自由巡回してもらう「宮崎・焼酎観光ルート」を設定し誘客を図っています。観光客にとつて市町村という単位は関係ないわけですから、

こうした取り組みは積極的に支援していきたいと思っています。複数の自治体にまたがる新しい観光ルートの創設もまた、3市が連携して取り組める事業の一つだと考えます。

池田 特に防災に関して、3市で連携して取り組むべきだと考えています。冒頭でも申し上げましたが、岩手県遠野市長が三陸沖地震への備えの重要性を提唱され、沿岸部の後方支援のまちづくりに取り組まれました。不幸にも東日本大震災が発生した際、事前の準備が早期の災害復興に大いに機能を発揮したということでした。当県の場合、南海トラフ地震が発生する可能性が指摘されており、発生時において遠野市が果たした後方支援都市としての役割を当市が果たさなければならぬと考えています。まずは、3市を含む周辺市町で防災協定の締結を目指して準備を進める一方で、当市はそうした機能を高められるまちづくりに取り組みたいと考えています。

村岡 確かに、防災への備えに共同で取り組むことで3市の関係が今まで以上に深くなり、観光や街づくりといった施策に派生することも考えられます。

崎田 防災訓練を合同で実施しても良いと思います。関係者だけでなく、市民がお互いに顔が見える関係が構築できれば、さまざまな波及効果が生まれるのではないのでしょうか。今回の座談会を契機に、3市で新しい取り組みがスタートすることを期待します。本日はお忙しい中、ありがとうございました。